

127 いわむらだぎおん ふなさままつ 岩村田祇園におけるお船様祭り



指 定 市無形民俗文化財 昭和58年 9 月1日
 所在地 岩 村 田
 所有者 荒 宿 区



毎年夏（現在は7月第三土・日曜日）行われる岩村田祇園祭に、荒宿区からお船様がでる。お船様の船体の組み立てと、船上に飾る「さぎ」作りは、同区のお船付きにより分担されて行われ、路上に据えられる。船体の用材の一部は応永年間（1394～1427）から毎年軽井沢町借宿の土屋恒雄家から奉納されている。

舟の中心に長さ25尺（7.6m）の帆柱を立て、上部に6尺（1.8m）の青竹と御幣をつけ、最上部に全身化粧した「さぎ」を丑寅（北東）に向けて飾る。帆柱の根本には高さ10尺（3m余）ほど枝葉つき松を結びつけ、それに獅子頭と縫い箔の衣装を前後から掛け、帯を二重にしてお姫様の姿をつくる。船の周囲には紋章入りの幔幕を張りめぐらして、お船様の組み立ては終わる。

祭礼当日は、お船付きのほか町内外の若者も加わって、荒町・今町・本町を、祇園の御輿とともにねり回ったが、現在は荒宿中央路上に安置して参拝するようになった。

このお船様祭は、尾張国（愛知県）津島神社の行事に酷似しており、古文書中にもここから勧請したことを記したものである。

祭礼用具	・獅子頭	奉納祇園午頭天王御獅子（寛文元年～1661） 奉寄進午頭天御獅子（享保5年～1720）
	・衣 装	絹無地青紬松竹梅縫い箔 もみとき色 外5点
	・御 帯	緞子 外2点
	・大提灯	応永5年（1398）以来、何回か作りかえられている。